ることいふばかりなし。なほ重要なる都市は、いづれも電話架設の目論見ありといへば、遠からずして、全國の人と坐ながら談話し得るに至るべし。

外國地理

第一編　亞細亞洲

第一章　總論

位置　北、北緯七八、南、北緯一一、東、西經一六、九、西、東經二六、四

廣狹境界

亞細亞洲は、東半球の東北に位し、南は、マライ半島のコモリン岬に起り、北は、シベリアの北東岬に終り、西は亞細亞トルコのババ岬より起り、東はベーリング海峽の東岬に達す。東西の長さ、およそ二千八百里、南北およそ二千百里、面積およそ二百八十萬方里ありて、全地球陸地の三分の一を占め、六大洲中第一に位す。南は印度洋に臨み、北は北氷洋に對し、東は太平洋に面し、西はウラル山・裏海・黑海・地中海を介在して、歐羅巴洲に隣り、紅海を隔てて、亞弗利加洲とあひ望む。

海岸

太平洋の沿岸には、カムチヤッカ半島・朝鮮半島突出して、樺太島・日本群島と共にオコツク海と日本海とを分ち、渤海・黃海・東海・支那海は、支那大陸を繞り、臺灣・海南の二島その中にあり。印度支那半島の左右には、トンキン・暹羅の二灣を形づくり、南端にスマトラとマラッカ海峽を挾む。印度大半島の前面にセイロン島あり、ベンガル灣・アラビア灣その東西にあり。オーマン灣・ペルシア灣更に大陸に突入す。アラビア半島の西には、亞弗利加大陸灣曲して、アデン灣と紅海とを抱き、スエズ運河によりて地中海に通ず。スエズ運河を出づれば、地中海に入る。ここに突出するは小亞細亞半島地にて、歐羅巴洲とマルモラ海を抱く。マルモラ海は、東はボスポラス海峽によりて、黑海に通じ、西はダルダネルス海峽によりて多島

山川

海に通ず。北氷洋の沿岸はオビ灣の外、殆ど一直線なり。以上の海岸線を通算すれば、大略一萬四千里に及ぶ。

亞細亞洲は、世界の家根と稱するパミールの一大高原より、山脈四派に分れ、東南に赴くものをヒマラヤ山脈とす。その脈八百里の長さに及び、二萬四千尺以上の高峰四十餘あり。その最高峰をエバレストといふ、直立二萬九千尺、實に世界第一の高峰なり。東北ベーリング海峽まで、一千五百里の間に延びわたるものを、葱嶺・天山・アルタイ・ヤブロノイ・スタノボイ等の連續山脈とす。この二大山脈の中間は、世界第一の高原にて、東するに從ひ漸く低下し、遂に一大平原となる。支那の領土その大部分を占む。

南に走る一派をスリマン山脈といふ。この山脈の東に印度

支那の平原あり。西に延出するは、ヒンドクーシュ・エルブルーズ・トーラスの連續山脈なり。この山脈の南にはイラン高原あり。ヒンドクーシュ山脈の北には、沼澤多き中央亞細亞の平原あり。アルタイ山脈およびヤブロノイ山脈の北にありて、北氷洋に向ひ本洲の北半部を占むる大平原をシベリア地方とす。

以上の地勢なるにより、河流は四方に奔下す。その主なるものは、東に黑龍江・黃河・揚子江あり、印度洋面には、イラワーデ・ブラマプトラ・ガンヂス・インダス・ナグリス・ユーフレート等の諸大河あり。北氷洋面にはオビ・エニセー・レナの三大河あり。いづれも流域を灌漑し水運の利を與ふるものなり。湖沼の大なるものは裏海を第一とす。世界無比の大湖にて、その

氣候

面積日本全國より廣し。その東なるアラル海・バルカッシュ湖等皆鹹水なり。エニセー水源のバイカル湖は、淡水湖なり。

本洲は、南は赤道直下より、北は北極近傍まで延び廣がるのみならず、世界第一の高山・高原等あるにより、溫度の差實に甚しく、世界第一の極寒地・極暑地共に洲內にあり。南亞細亞は、大抵熱帶中にあるにより、炎暑の烈しきこと、殆ど堪ふべからず。然れども雨量の多きこと、世界第一の地なれば、これがため、幾分か暑熱を淺ぐことを得れども、西亞細亞は、雨量極めて少なく、沙漠多ければ、溫帶に位するにも關はらず、暑熱の烈しきこと、世界第一なり。東亞細亞は、東海岸の外は寒暑ともに甚し。中央亞細亞は、雨量少なくして、沙漠多きにより寒暑の差の大いなること、世界に冠たり。北亞細亞も、雨量

乏しく、またその寒氣の烈しきこと、世界第一にて、その期間も長ければ、殆ど人の生活に堪へざる所あり。夏季はこれに反して、期間甚だ短けれども、暑氣は意外に強し。これ大陸氣候の免れざることなり。

天產物

榕樹は、枝垂れて地に入り根を生じ、幹となり、遂に一樹一林をなす奇樹なり。

植物は五穀・茶・綿・藍・甘蔗・珈琲等の農產物より、松・柏・楡・柳・秦皮・樺・桑・榕樹等の樹木・竹類・香木類等夥しく產出す。動物は日本に產するものの外、熱帶地には、虎・豹・象・獅子・水牛・猩々・駱駝・鱷魚等を產し、寒帶には、馴鹿・熊・白熊・海馬・海豹等を產す。鑛物は各種の金屬・寶玉・石炭等多し。中にもウラル山脈の白金・銀・鐵、アルタイ山脈の金・銅・鐵・綠玉・石・水晶、印度の金剛石、印度近海の眞珠は有名なり。本洲の中部および北部は鑛物甚だ多けれども、採掘の業いまだ盛んならず。

住民

本洲の住民は、モーコ・コーカサス・マライの三人種にて、ヒマラヤ山脈は、モーコ・コーカサス兩人種の分界線をなす。即ち山脈の南は、コーカサス人種にて、北はモーコ人種なり。マライ人種は主としてマライ半島地方に住す。本洲の住民は、八億四千萬に餘り、世界人口の七分の四を有す。この內六億余は支那と印度とに住し、二億は他の地方に住す。北亞細亞とアラビアとは、氣候のあしきため、住民極めて少なし。

宗教

佛教・耶蘇教・猶太教・回教・婆羅門教等は皆本洲より起れり。佛教・婆羅門教は、印度に始まり、印度および東亞細亞に行はれ、耶蘇教・回教・猶太教は、西亞細亞に起り、耶蘇教は、世界各地に行はれ、回教は、西亞細亞と中央亞細亞および支那の一部に行はれ、猶太教は西亞細亞と歐羅巴との一部に行はる。

區劃

本洲現今邦制上の區劃は左の如し。

日本　韓　清　暹羅（シアム）　ペルシア　露領亞細亞

佛領亞細亞　英領亞細亞　アフガニスタン

アラビア　亞細亞トルコ

この中露領亞細亞には、シベリア・中央亞細亞・トランスコーカシアの三部あり。佛領亞細亞には、トンキン・アンナン・コーチシナ・カンボチャの四部あり。英領亞細亞には、海峽殖民地・ビルマ・印度・ペルチスタンの四部あり。また暹羅と佛領亞細亞の全部と英領亞細亞中の海峽殖民地およびビルマを總稱して印度支那といひ、アフガニスタン・ペルチスタン・ペルシアを汎稱してイラン高原といふ。

海岸

巨濟島と閑山島とは豐臣秀吉の征韓の役に海軍を屯せし所なり。

第二章　韓

韓國は、もと朝鮮といひしを、わが明治三十年、國號を韓と改めたるなり。亞細亞東部の半島にて、面積は、大略わが國の半に當り、一萬四千方里あり。日本海岸は、屈曲少なく斷崖多く德源灣内の、元山津の外は良港なし。南、朝鮮海峽および西、黃海海岸は、出入多くて良港に乏しからず。釜山浦は、わが對馬とあひ望み、南方唯一の良港とす。木浦および仁川は、西海岸の良港なり。島は濟州島を最大とす。その他巨濟島・閑山島・南海島・巨文島・珍島・安眠島・江華島等また著名なり。西岸の豐島は、明治二十七八年戰役に、わが軍艦の敵艦を破りしところなり。

山勢

長白山脈北方に蟠居して、滿州の界を限る。脈中の白頭山は國中第一の高山なり。その脈、南に赴き、全國の地勢を東西に縱斷し、脊梁をなす。これを白頭山脈といふ。山脈の東部は、急傾斜をなして、日本海に迫るにより、土地狹長にて、平地少なく海岸は斷崖多し。西部の黃海に向ふ地方は、傾斜急ならず、平地やや多し。この山脈の支脈四方に延びわたり、國內丘陵多くて廣原少なし。

河流

河流は、白頭山脈に分界せられて、東・西・南の三方に分流す。その東して日本海に注くものを圖們江とし、シベリアの界をなし、南して朝鮮海峽に入るものを洛東江とし、西下して黃海に注ぐものを鴨綠江・大同江・漢江・錦江とす。鴨綠江は、この國第一の大河にて、支那の界をなす。

氣候

この國は、亞細亞大陸に接するにより、大陸氣候の影響をうけて、寒暑ともに甚し。加ふるに冬季は、オコツク海よりくる寒流、風雪を伴ひ來たりて、寒氣烈しく、中部以北は、河水悉く氷結す。土人は溫突（オンドル）を用ひて、僅に暖を取る。これに反して、夏季は暑氣烈しく、雨少なくて、旱魃の患多し。

溫突とは床下に火氣を通ずるものなり。

產物

この國は、元來地味肥沃なれども、耕作の方法幼稚なる上に、河流は、天然の儘に放任して、灌漑の方不完全なれば、天與の利益を失ふこと多きは惜むべし。物產は五穀・豆類・麻・人參等の農產物、牛・馬・騾・犬等の家畜、虎・豹等の猛獸および海產物等多し。農產物と牛とは、この國第一の輸出品なり。沿海は魚類多けれども、漁具の不完全なると、漁舟を造るべき木材乏しきとによりて、その利は殆どわが國人の專有に歸し、土人は

却つてわが漁民より買ひ受くる有樣なり。鑛業は金鐵に富めども、國民は、地氣を損し、凶旱を招くと迷信し、政府も一度採金を禁じたる程なれば、その利はみな外國人に占められ、土人は、僅に河畔の砂金を拾ふに過ぎず。工業は、往古は美術・工藝大いに發達したりしも、今は全く退歩して、自國の織物・陶器は僅に下民の需要を充つるのみ。その他は大抵外國より輸入す。

住民

住民はモーコ人種に屬し、骨格・容貌わが國人に似たり。人口六百萬あり。性質は溫和なれども、懶惰にて進取の氣象に乏し。國民に貴族・下民の階級あり。貴族は、黑色の絹を著、下民は、白き長衣を著け、妻あるものは、黑き帽を被り、未成年者は、紅色の服を用ひ、また帽をも異にすれば、一目して貴賤・有妻・無妻を見分くることを得。婦女は短衣・長袴を著用す。

教育

教育は漢學によれども、俗間には、わが片假名に似たる文字を用ふ。これを諺文といふ。近來は、わが國語および西洋の學を修むるものあり。宗教は佛教なれども、今は大いに衰へて、僅にその形跡を存するのみ。政治は、君主專政なれども、近來は、わが國の政治に倣ひ、內閣を置き、內部・外部・度支部・軍部・學部・法部・農工商部の七大臣を以つてこれを組織す。大臣の首班を領議政といふ。わが總理大臣と同じ。大臣の下に協辨あり。わが次官に當る。中樞院は至高顧問府にて、わが樞密院に同じ。宮內大臣は、帝室の庶務を掌り、また各道の首都には監司を置きて、一道の政務を統轄せしむ。かく敍し來たれば頗る整頓する樣なれども、實際はいまだ然らざるなり。兵制もい

政治

軍備

まだ確立せず。陸軍は數大隊の携銃兵あるのみにて、海軍は更にその備なし。

交通

國内山多く、河流急なれば、從ひて坂路多く、その他の道路も極めて粗惡にて、大雨ある毎に、交通全く絶ゆるに至る。ただ京城より、義州府に至る道路は、もと支那使臣の往來せし道筋なれば、少しは修繕しありて平坦なり。陸運はすべて牛馬の力により、海運は全くわが國の船舶の專有なり。近來僅に京城・仁川間に鐵道を開通し、京城釜山間・京城仁川間・京城義州間・京城元山津間の鐵道等敷設の計畫中なれば、將來は、交通運輸共に便利を得、産業も發達するなるべし。

貿易

交通不便なるにより、商業も盛んならず。主なる輸出品は、米・大豆・牛皮・砂金・人參・紙・木綿にて、輸入品は、金巾・寒冷紗・毛布・マッチ・石油・陶磁器等とす。貿易額の百中八十三餘は、わが國との取引なり。内國商業は、毎月六回市街地に市場を開きて、日用品の取引をなすのみ。郵便・電信の如きは、主要なる地に、外國人の設けたるものあるに過ぎず。

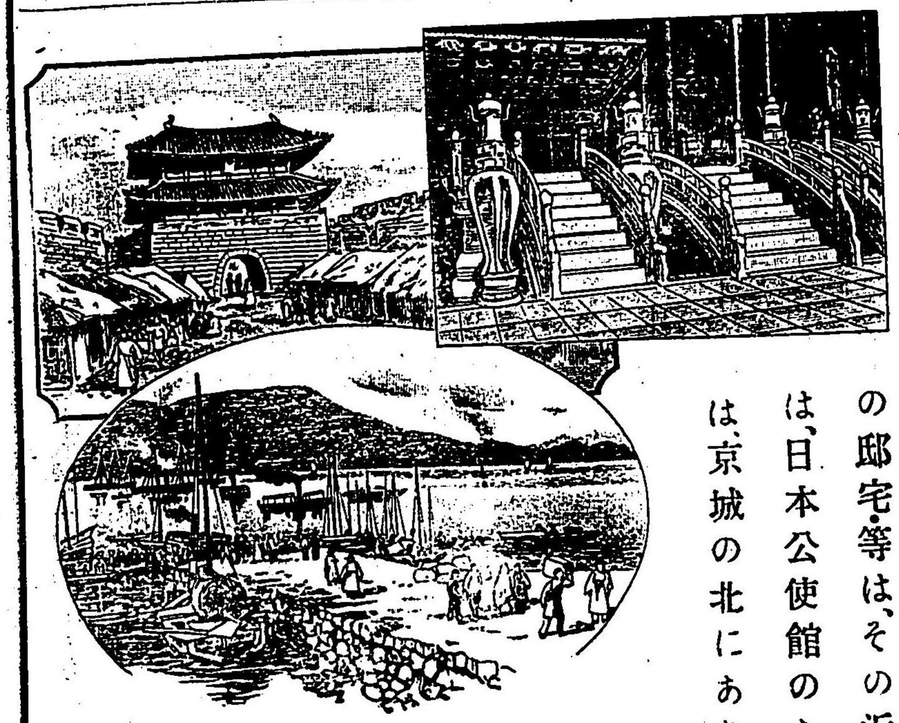
區劃

全國を分ちて京・畿・忠・清・全・羅・慶・尙・江・原・咸・鏡・平・安・黃・海の八道となす。この頃また忠清・全羅・慶尙・江原・咸鏡の五道を各南北に分ちて十道となしたれば、都合十三道となりたり。道の下に州・府・郡・縣の細別あり。

京畿道は、國の中央にあり。その首府を京城といふ。漢江の東岸にあり。仁川港に近く、市街殷賑なれども、家屋・道路いづれも不潔なり。人口二十五萬あり。王城は、四方城壁を繞らし、王宮は、景福宮と稱し、別に一廓をなし、諸官衙・各國公使館・貴族

京畿道京城は、現朝の大祖康獻王の始めて都せしより、五百餘年來の國都たり。

開城府は、古の高麗の舊都なり。



京城と仁川

の邸宅等は、その近傍にあり。城内の泥峴は、日本公使館のあるところなり。開城府は、京城の北にあり。仁川港は、もと寂しき漁村なりしも、明治十六年の開港にかかり、今はこの國第一の良港となり、大豆・小豆・牛皮・牛骨・木綿等の輸出盛んなり。わが領事館ありて、邦人の居留するもの五千人に及ぶ。

忠清道

公州府は百濟の舊都。

全羅道

慶尚道

釜山港の近傍は昔、の任那の地にて、久しくわが國に細貢せり。

忠清道には、錦江、南境を流れ、地味を肥すにより農産物多し。その南岸に首都公州府あり。牙山と成歡とは、二十七八年戰役に、わが陸軍の清軍を擊破せし處なり。全羅道は、この國の南端にあり。海岸線の出入多く、良港灣に富む。木浦は、明治三十年に始めて開きたる貿易場にて、港内廣く、且つ榮山江の水運あり。將來の繁華期して待つべし。首都全州は、東學黨の兵火に罹りし以來市況衰へたり。

慶尚道には洛東江ありて本道を縱斷し、南流するゆゑに、地味の肥沃なる、農産の豐富なる、國内第一に位す。首都大邱府は、本道の中央にある繁華の都會にて、その市場は、毎年春季に至れば、遠近の産物一時に集まり、取引實に盛んなり。釜山港は、本道の西南端にあり。朝鮮海峽に臨み、その前に絶影島

釜山

あり。灣内廣大にて、大舩を舶するによろし。現今邦人の居留するもの五千人に及び、一の日本街をなし、わが國との交通甚だ盛んなり。慶州府は、新羅の舊都にて、一千餘年間の舊跡を留め、蔚山府は、加藤清正の籠城せし地なるにより、歴史上著名なり。抑も、本道は、わが對馬とあひ近きにより、數百年來わが國と貿易せしのみならず、神功皇后および豐臣秀吉の征韓は、皆この地方より著手しければ、歴史上の關係甚だ厚し。江原道は

明治三十五年十一月九日印刷
明治三十五年十一月十二日發行

中等地理全四冊奥付

定價
卷一金七拾錢
卷二金四拾五錢
卷三金四拾五錢
卷四金四拾五錢

著作者　瀧本鐙三

發行兼印刷者　東京市日本橋區吳服町一番地　株式會社普及舍

代表者　取締役　中川九郎

賣捌所　各府縣持約賣捌所

不許複製

3/7

8 B
2440

86
240

022126−001−1

86−240

中等地理教科書

滝本　鐙三／著

M35
ADA−0517